

**「野村新エマージング債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の  
2012年12月25日決算の分配金について**

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村新エマージング債券投信(通貨選択型)」「毎月分配型」の2012年12月25日決算の分配金についてご案内いたします。

今回の決算において、基準価額、ファンドが投資する外国投資信託のポートフォリオの平均最終利回り※、為替ヘッジプレミアム/ヘッジコスト等の水準を勘案し、「ブラジルリアルコース」、「南アフリカランドコース」および「インドネシアルピアコース」の分配金を引き下げることといたしました。

一方、「豪ドルコース」につきましては、基準価額の水準等を勘案し、分配金を引き上げることといたしました。

また、「円コース」、「米ドルコース」および「中国元コース」につきましては、前回決算の分配金額から変更しませんでした。

分配金引き下げ、引き上げに関する詳細な説明は、次ページ以降をご参照ください。

※ポートフォリオの平均最終利回りとは、ファンドが投資する外国投資信託の組入債券等(現金を含む)の最終利回りをその組入比率で加重平均したものです(現地通貨建)。

分配金額と基準価額は下表の通りです。

**【分配金】**(1万口当たり、課税前)

<2012年12月25日決算>

ファンド	円コース (毎月分配型)	米ドルコース (毎月分配型)	豪ドルコース (毎月分配型)	ブラジルリアルコース (毎月分配型)	南アフリカランドコース (毎月分配型)	中国元コース (毎月分配型)	インドネシアルピアコース (毎月分配型)
分配金額	<b>70円</b>	<b>50円</b>	<b>150円</b>	<b>110円</b>	<b>80円</b>	<b>60円</b>	<b>80円</b>
(前回決算)	(70円)	(50円)	(100円)	(140円)	(110円)	(60円)	(100円)
決算日の基準価額	<b>10,956円</b>	<b>10,857円</b>	<b>12,564円</b>	<b>8,382円</b>	<b>9,340円</b>	<b>11,158円</b>	<b>9,412円</b>
決算日の基準価額(分配金再投資)	<b>13,465円</b>	<b>12,867円</b>	<b>16,644円</b>	<b>13,494円</b>	<b>13,441円</b>	<b>13,636円</b>	<b>13,291円</b>
(前回決算)	(13,227円)	(12,394円)	(15,938円)	(12,819円)	(12,340円)	(13,162円)	(13,035円)
分配金額設定来累計	2,150円	1,650円	3,110円	4,470円	3,520円	1,980円	3,280円

\* 設定日:2010年2月24日

\* 前回決算:2012年11月26日

\* 基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

— 上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

**【「毎月分配型」の分配の方針】**

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。

分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。

ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。

なお、毎年6月および12月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。

※「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものであることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【ご参考:設定来の毎月の分配金実績】(1万口当たり、課税前)

コース	期間(年/月)	2010/4~ 2010/7	2010/8~ 2010/11	2010/12~2012/11	2012/12	
円コース(毎月分配型)		50円		70円		
米ドルコース(毎月分配型)		50円				
豪ドルコース(毎月分配型)		70円		100円	150円	
ブラジルリアルコース(毎月分配型)		120円	130円	140円	110円	
南アフリカランドコース(毎月分配型)		100円		110円	80円	
中国元コース(毎月分配型)		60円				
インドネシアルピアコース(毎月分配型)		100円				80円

\*設定日:2010年2月24日

分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

—上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

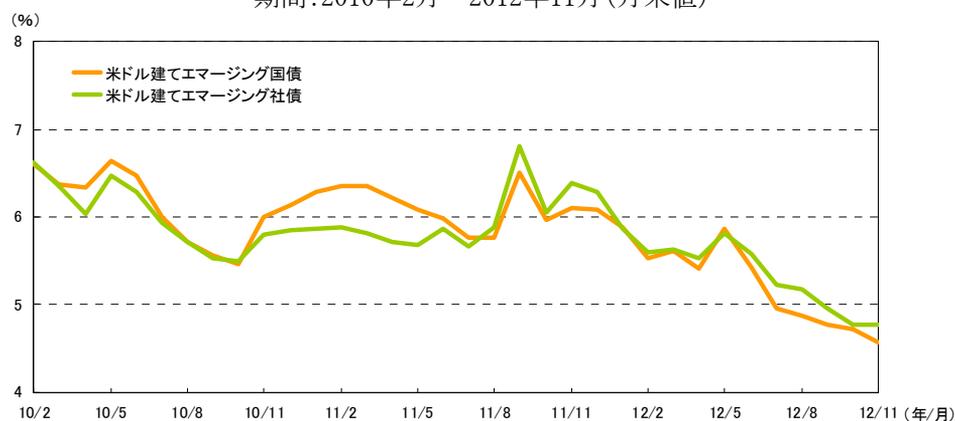
【ご参考:投資環境】

《米ドル建てエマージング債券の利回りの推移》

米ドル建てエマージング債券の利回りは、2010年2月末(ファンド設定月の月末)に米ドル建てエマージング国債、米ドル建てエマージング社債ともに6.6%でしたが、その後は低下傾向で推移しました。2011年8月~9月に欧州債務危機等による信用不安から一時的に上昇しましたが、2012年11月末には米ドル建てエマージング国債は4.6%、米ドル建てエマージング社債は4.8%まで低下し、2010年2月末以降で最も低い水準となりました。

＜米ドル建てエマージング債券の利回りの推移(課税前)＞

期間:2010年2月~2012年11月(月末値)



\*ファンドが投資対象とする外国投資信託は、純資産総額の35%以内を社債へ投資します。  
米ドル建てエマージング国債:JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル  
米ドル建てエマージング社債:JPモルガン・コーポレート・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・ブロード  
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル(JP Morgan Emerging Market Bond Index Global)は、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているエマージング・マーケット国債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。JPモルガン・コーポレート・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・ブロード(JP Morgan Corporate Emerging Market Bond Index Broad)は、J.P. Morgan Securities LLCが公表しているエマージング・マーケット社債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

—上記は過去のデータであり、将来の投資効果を示唆あるいは保証するものではありません。  
また、ファンドの運用実績ではありません。ファンドの運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《ブラジルリアルコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「ブラジルリアルコース」の分配金を140円から110円に引き下げました。

基準価額は、2011年8月頃まで概ね10,000円を上回る水準で推移しましたが、その後ブラジルリアル(対円)の為替レートが円高傾向に推移したこと等により、基準価額は下落し、足元については8,000円近辺で推移しました。

市場環境においては、米ドル建てエマージング債券の利回りの低下(債券価格は上昇)により、インカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、ブラジルリアル(対円)の短期金利の低下(2011年8月末12.3%から2012年11月末7.1%)に伴ない為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米ドル建てエマージング債券のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が8,000円近辺で推移していることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

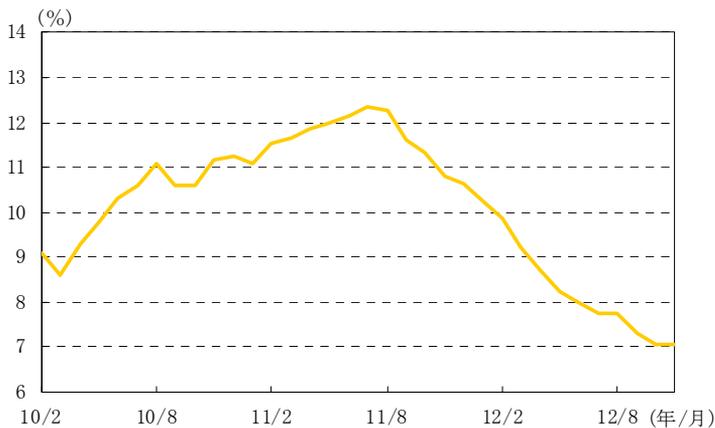
＜基準価額の推移＞

期間:2010年2月24日(設定日)～2012年12月25日、日次



＜ブラジルリアル(対円)の短期金利の推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



＜ブラジルリアル(対円)の為替レートの推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



ブラジルリアル(対円)の短期金利: CD(譲渡性預金証書)レート1ヵ月  
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

—上記は過去の運用実績およびデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。—

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しの投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

◀南アフリカランドコース(毎月分配型)▶

今回の決算におきまして、「南アフリカランドコース」の分配金を110円から80円に引き下げました。

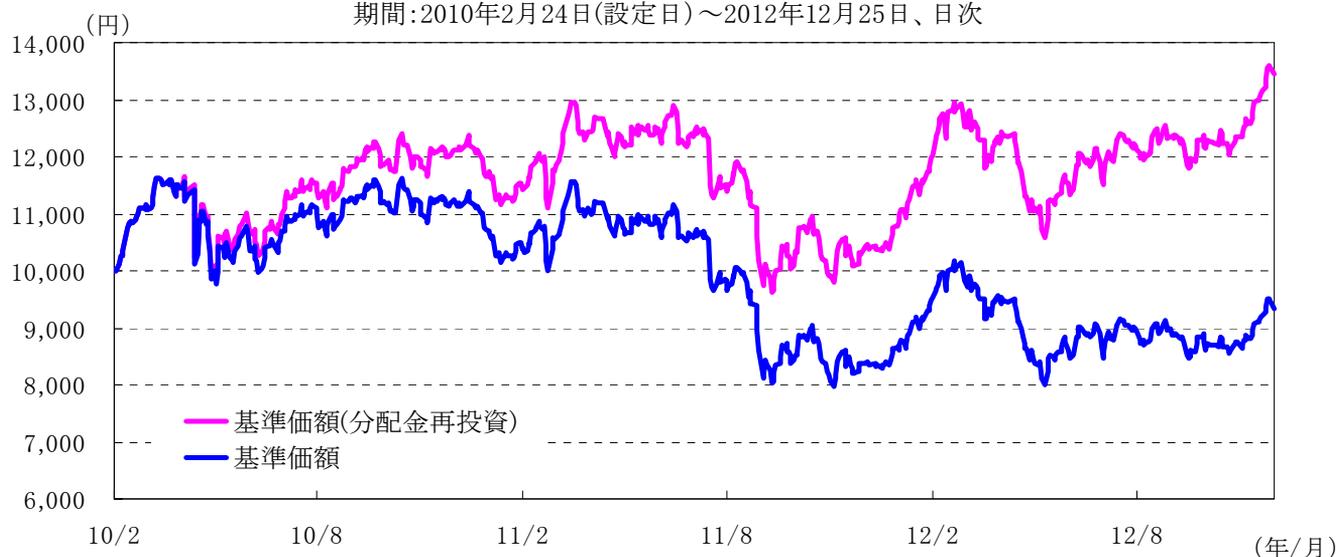
基準価額は、2011年8月頃まで概ね10,000円を上回る水準で推移しましたが、その後南アフリカランド(対円)の為替レートが円高傾向に推移したこと等により、基準価額は下落し、足元については9,000円近辺で推移しました。

市場環境においては、米ドル建てエマージング債券の利回りの低下(債券価格は上昇)により、インカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、南アフリカランドの短期金利の低下(2012年6月末5.5%から2012年11月末4.9%)に伴ない為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米ドル建てエマージング債券のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が9,000円近辺で推移していることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

＜基準価額の推移＞

期間:2010年2月24日(設定日)～2012年12月25日、日次



＜南アフリカランドの短期金利の推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



南アフリカランドの短期金利:ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート1ヵ月  
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

＜南アフリカランド(対円)の為替レートの推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

— 上記は過去の運用実績およびデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き下げた各コースの説明】

《インドネシアルピアコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「インドネシアルピアコース」の分配金を100円から80円に引き下げました。

基準価額は、2011年8月頃まで10,000円近辺で推移しましたが、その後インドネシアルピア(対円)の為替レートが円高傾向に推移したこと等により、基準価額は下落し、足元については9,000円近辺で推移しました。

市場環境においては、米ドル建てエマージング債券の利回りの低下(債券価格は上昇)により、インカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、インドネシアルピアの短期金利の低下(2011年7月末6.8%から2012年11月末4.6%)に伴ない為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米ドル建てエマージング債券のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムの低下、基準価額が9,000円近辺で推移していることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き下げることにしました。

＜基準価額の推移＞

期間:2010年2月24日(設定日)～2012年12月25日、日次



＜インドネシアルピアの短期金利の推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



＜インドネシアルピア(対円)の為替レートの推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



インドネシアルピアの短期金利:インドネシア・ジャカルタ・インターバンク・オファード・レート1か月  
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

— 上記は過去の運用実績およびデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【分配金を引き上げたコースの説明】

《豪ドルコース(毎月分配型)》

今回の決算におきまして、「豪ドルコース」の分配金を100円から150円に引き上げました。

基準価額は概ね10,000円を上回る水準で推移しました。2012年6月以降については、米ドル建てエマーヅィング債券の価格が上昇する中、豪ドル(対円)の為替レートが円安傾向に推移したこと等もあり、基準価額は上昇基調で推移し、足元では12,000円を上回る水準となりました。

一方、市場環境においては、米ドル建てエマーヅィング債券の利回りの低下(債券価格は上昇)により、インカムゲインが低下したほか(2ページご参照)、豪ドルの短期金利の低下(2011年10月末4.8%から2012年11月末3.3%)に伴う為替ヘッジプレミアムが低下しました。

以上より、米ドル建てエマーヅィング債券のインカムゲインや為替ヘッジプレミアムが低下したものの、債券価格の上昇や豪ドル高円安等により基準価額が12,000円を上回る水準で推移していることなどを総合的に鑑み、今回の決算において分配金を引き上げることとしました。

＜基準価額の推移＞

期間:2010年2月24日(設定日)～2012年12月25日、日次



＜豪ドルの短期金利の推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



＜豪ドル(対円)の為替レートの推移＞

2010年2月～2012年11月(月末値)



豪ドルの短期金利:1ヵ月LIBOR  
(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

(出所)ブルームバーグのデータに基づき野村アセットマネジメント作成

基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したもとして計算した価額です。したがって、実際のファンドは課税条件等によって受益者ごとに価額は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

— 上記は過去の運用実績およびデータであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。 —

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

## 《米ドル建てエマージング債券市場の見通し(2012年11月末現在)》

(ファンドが投資対象とする外国投資信託の投資顧問会社であるアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーの情報に基づき野村アセットマネジメント作成)

米国の財政の崖をめぐる協議、欧州債務問題の根本的な解決、中国における新指導体制への移行など、先行きの不透明感の払しょくには時間がかかるとみているものの、エマージング債券市場に対する投資家の需要は非常に旺盛で、需給は今後も良好な状況が続くと見込んでいます。

国別では、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)の強固なカザフスタン、コートジボワールなどの投資価値が高いと考えています。一方、政局が不透明なリトアニアなどについては慎重な見方をしています。

また、エマージング社債は過去の利回り水準などから見て割安と判断しており、組み入れを継続する方針です。

引き続き、新興国諸国の経済回復に伴い信用力が向上すると見込まれる新興国および新興国企業の中から、投資価値が高いと判断する銘柄へ投資をしていく方針です。

## 《為替市場の動向と見通し》

2012年の為替市場の動きを米ドルの実効相場で見ると、欧州債務問題や中国景気減速懸念など不安が最も高まった5、6月には米ドルの実効相場は最も上昇し、その後8、9月にかけて欧州債務問題が小康状態になるにつれて反落し、11月に世界景気の先行きに対する不安から再び小幅上昇するというように上下に動く形になっています。

ただし、米ドルの対円相場という点では、2012年は不安要因発生時の逃避先として世界の通貨の中で「円」が最も注目を集めたため、(米ドルの対円相場は)他の通貨とは逆に、不安要因発生の際に米ドル安・円高となる傾向がありました。円ドル相場の先行きについて市場参加者の間では、今後の日本の貿易収支や、今後の欧州債務問題や中国の景気動向などが注目されていますが、日本の総選挙を受けた次期政権の円安政策の効果が最も注目されています。

### ＜豪ドル＞

豪州は、主要輸出先である中国景気の減速や、国内の資源投資動向や労働市場動向が軟調なことから、豪州準備銀行は利下げを繰り返しており、政策金利を2009年以来の3.0%まで引き下げています。足元の豪ドル市場では、米国での追加量的緩和などによる豊富な流動性の存在に加えて、欧州債務問題や米国の「財政の崖」問題などの存在に対して消去法的に豪ドルを選ぶという動きから投資資金が流入して、豪ドル相場が押し上げられています。

ただし、中央銀行関係者からは過度の豪ドル高が景気に悪影響を与えることを懸念する発言も出ていることもあって、市場参加者の中に高値警戒感もあり、(対米ドルでの)上値を迫ることは慎重なようです。市場参加者の間では、今後の商品市況の動向や金融政策などが注目されていますが、豪ドルの先行きについては、当面、上下方向ともに強い方向感を持っていないようです。

#### <ブラジルレアル>

ブラジルは、成長率が伸び悩む中で、2011年から10回目の利下げを2012年10月中旬に実施し、政策金利を過去最低水準まで引き下げています。ただし既に5%強もの利下げを行なっていることから、市場参加者の間では、今後ブラジル中銀は利下げを打ち止め、他の政策手段も含めた複合的な政策アプローチに変化していくと見られているようです。実際に11月にはブラジル中銀は利下げを見送りました。2013年に利上げまで進む可能性について、インフレ圧力の強さと景気の落ち着きについての政策当局者の発言が注目されています。

このような政策修正を図っている環境下では当局者は通貨レアルが不安定な動きをすることを望んでおらず、11月末に(対米ドルでの)レアル安の動きが見られた際にはレアル買い・米ドル売りの為替介入を実施しました。このため市場参加者の間では通貨レアルは安定基調が続くという見方が主流になっています。

#### <南アフリカランド>

南アフリカは、7月に約2年ぶりに利下げを行なった後は政策金利を据え置いています。これまで欧州債務問題に際しても個人消費は比較的堅調でしたが、8月以降拡大した大規模ストライキによる国内景気への悪影響が出ています。

これまで南アフリカは、景気・インフレ・対外収支それぞれのバランスを考慮した政策対応が市場参加者から評価されてきましたが、足元ではインフレの問題がある中で景気が減速するなど政策手詰まりの兆しが見られ始めています。また主要貿易先の欧州情勢の影響も受けて対外収支も悪化しています。(対米ドルで)通貨ランドは、相対的な高金利と、前述の経済バランスが不安定になり始めたことへの警戒感の間での綱引きという構図が続いており、市場参加者の間では一進一退するのではないかという見方が多いようです。なお10月にS&P社が外貨建て長期債を格下げしているのは特に長期的な前述の経済バランスへの懸念が影響しています。

#### <インドネシアルピア>

インドネシアは、新興国の中でも高成長を維持するための景気刺激策に積極的です。現時点ではインフレ率はそれほど高くはないですが、高成長が続くとともに今後インフレ率加速に対して利上げ政策が取られる可能性も市場参加者の間で考えられています。

(対米ドルでの)通貨ルピアは、5月の大幅下落の後は緩やかに切下がる動きが半年以上続いています。これはインフレ格差による実質通貨価値下落分を調整する動きが突然発生しないように予め緩やかに調整しておく為替政策によるもので、市場参加者の間ではこのような状況が続く可能性が高いと見られているようです。

以上

【ファンドの特色】

- 「野村新エマージング債券投信(通貨選択型)」は、投資する外国投資信託において為替ヘッジ手法の異なる7つのコース(円コース、米ドルコース、豪ドルコース、ブラジルリアルコース、南アフリカランドコース、中国元コース、インドネシアルピアコース(各コースには「毎月分配型」、「年2回決算型」があります。))および「マネープールファンド(年2回決算型)」の15本のファンドから構成されています。
- 各コース(マネープールファンドを除く7つのコースを総称して「各コース」といいます。)
  - ◆ 高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いません。
  - ◆ 米ドル建ての新興国の国債、政府保証債、政府機関債および社債(以下「エマージング債券」といいます。)を実質的な主要投資対象\*とします。  
※「実質的な主要投資対象」とは、外国投資信託や「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
  - ◆ 円建ての外国投資信託「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ ノムラ・エマージング・マーケット・ボンド・ポートフォリオ」および国内投資信託「野村マネー マザーファンド」を投資対象とします。  
・「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ ノムラ・エマージング・マーケット・ボンド・ポートフォリオ」には、為替ヘッジ手法の異なる7つのクラスがあります。

各コース	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替ヘッジ手法
円コース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
米ドルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産に対し、原則として為替ヘッジを行いません。
豪ドルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対豪ドルで為替ヘッジを行いません。
ブラジルリアルコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対ブラジルリアルで為替ヘッジを行いません。
南アフリカランドコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対南アフリカランドで為替ヘッジを行いません。
中国元コース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対中国元で為替ヘッジを行いません。
インドネシアルピアコース (毎月分配型)／(年2回決算型)	米ドル建て資産を、原則として対インドネシアルピアで為替ヘッジを行いません。

- ◆ 通常の状況においては、「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ ノムラ・エマージング・マーケット・ボンド・ポートフォリオ」への投資を中心とします\*が、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定することを基本とします。  
※通常の状況においては、「アライアンス・バーンスタイン・ファンドⅡ ノムラ・エマージング・マーケット・ボンド・ポートフォリオ」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。
- ◆ 各コースはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。
- マネープールファンド
  - ◆ 安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いません。
  - ◆ 円建ての短期有価証券を実質的な主要投資対象\*とします。  
※「実質的な主要投資対象」とは、「野村マネー マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
  - ◆ 「野村マネー マザーファンド」への投資を通じて、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。
  - ◆ ファンドは「野村マネー マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。

● スイッチング

「野村新エマージング債券投信(通貨選択型)」を構成する「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングができます。

● 分配の方針

◆ 毎月分配型

原則、毎月25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。  
分配金額は、分配対象額の範囲内で、委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。  
なお、毎年6月および12月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。  
※「原則として、利子・配当等収益等を中心に安定分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。

◆ 年2回決算型

原則、毎年6月および12月の25日(休業日の場合は翌営業日)に分配を行いません。  
分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

\* 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

**【投資リスク】**

各ファンド(「マネープールファンド(年2回決算型)」を除く)は、投資信託証券への投資を通じて、債券等に実質的に投資する効果を有しますので、金利変動等による当該債券の価格下落や、当該債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。

「マネープールファンド(年2回決算型)」は、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

**【お申込メモ】**

- 信託期間 平成27年2月25日まで(平成22年2月24日設定)
- 決算日および収益分配 【毎月分配型】年12回の決算時(原則、毎月25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。  
【年2回決算型】年2回の決算時(原則、6月および12月の25日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1万口単位(当初元本1口=1円)  
または1万円以上1円単位  
なお、「マネープールファンド」は、「年2回決算型」の他のファンドからのスイッチング以外によるご購入はできません。  
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 【各コース】  
ご換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額  
【マネープールファンド】  
ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング 「毎月分配型」のファンド間および「年2回決算型」のファンド間でスイッチングが可能です。  
※販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。
- お申込不可日 各コースは、販売会社の営業日であっても、申込日当日が、下記のいずれかの休業日に該当する場合または12月24日である場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。  
・ニューヨークの銀行  
・ルクセンブルグの銀行  
・ブラジル商品先物取引所(ブラジルリアルコースのみ)  
・サンパウロの銀行(ブラジルリアルコースのみ)  
・上海の銀行(中国元コースのみ)  
・ジャカルタの銀行(インドネシアルピアコースのみ)
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。  
なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。

**【当ファンドに係る費用】**

(2012年12月現在)

◆ご購入時手数料	ご購入価額に3.15%(税抜3.0%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 <スイッチング時> 販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 なお、「マネープールファンド」へのスイッチングの場合は無手数料 ※詳しくは販売会社にご確認ください。
◆運用管理費用(信託報酬)	【各コース】 ファンドの純資産総額に年0.924%(税抜年0.88%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。 ○実質的にご負担いただく信託報酬率 年1.774%程度(税込) ※ファンドが投資対象とする外国投資信託の信託報酬を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。 【マネープールファンド】 ファンドの純資産総額に年0.5775%(税抜年0.55%)以内(平成24年9月14日現在年0.021%(税抜年0.02%))の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、ファンドに関する租税、監査費用等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	【各コース】 1万口につき基準価額に0.3%の率を乗じて得た額 【マネープールファンド】 ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。  
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

**【ご留意事項】**

- ・投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- ・投資信託は預金保険の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。

◆お申込みは

◆設定・運用は

**野村アセットマネジメント**

商号:野村アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号  
加入協会:社団法人投資信託協会/  
一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先:野村アセットマネジメント株式会社

★サポートダイヤル★ ☎ 0120-753104

(受付時間)営業日の午前9時~午後5時



★インターネットホームページ★

<http://www.nomura-am.co.jp/>



★携帯サイト★

<http://www.nomura-am.co.jp/mobile/>

当資料は、ファンドの運用実績に関する情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。当資料中の記載事項は、全て当資料作成以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。ファンドは、債券等の値動きのある有価証券等に実質的に投資します(また、外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)ので基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。ファンド運用による損益は、すべて受益者に帰属します。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。